

中国視覚科学会議 (Vision Science Conference) 参加記

栗木 一郎

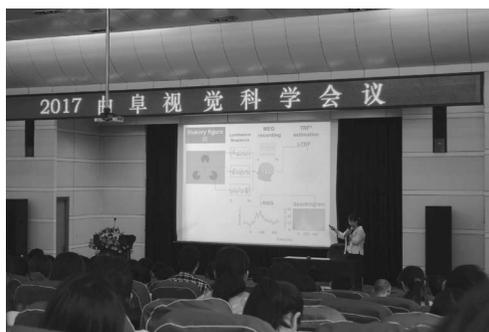
東北大学 電気通信研究所
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

中国で第2回となる Vision Science Conference (以下、VSC) が、孔子ゆかりの地である山東省曲阜の曲阜師範大学において実施され (2017/7/1~3), そこに参加する機会を得たのでその様子を報告する。

VSCの開催は今年で2回目であり、1回目は昨年の7月に北京大学で開催された。主に国内向けの視覚に関する学会であり、日本視覚学会と似た位置づけにある。今大会の実行委員長は Zijiang He (中国科学院心理学研究所, University of Louisville), 実行委員には Fang Fang, Kong Yu (いずれも北京大学), Sheng He (中国科学院生物物理研究所, University of Minnesota), Anna Wang Roe (浙江大学) など、北米の大学教授や北米で研究経験を持ち高い業績を挙げているPIが名を連ねている。今回の参加者数は約220名で、うち国外からの参加者が約30名という規模で行われた。キーノート講演として理研BSI・田中啓治氏, Vanderbilt University・Randolph Blake教授が招聘され講演を行った。さらに、昨年11月に急逝した理研BSIのKang Cheng氏の人物と業績を偲ぶシ

ンポジウムもVSCの前日にサテライトとして行われ、ゆかりの研究者が研究報告とともに各々の思いを述べる機会が設けられた。

3日間の学会における一般発表では、40件の口頭発表と73件のポスター発表が行われた。国外からの参加者への配慮からかスライド/ポスターは英語で作成するよう学会から指示がありおおむね実施されていたが、講演は主に中国語で行われた。私自身はACV, APCVとして中国で行われた学会 (2006年@重慶; 2012年@蘇州) に2回参加した経験があり、それらと



口頭発表の様子



曲阜師範大学の様子 (講演会場は正面奥の建物)



ポスター会場の様子

照らして雑感を申し上げる。2006年頃は眼科学・眼科学が中心だった研究分野も、この10年で知覚に関する研究が大きく増え、今回のVSCでは脳活動と知覚、意識との関連に関する研究が一般口演で報告され活発な議論が行われていた。

また、ヒト7T fMRI、内因性信号撮像 (intrinsic imaging)、2光子顕微鏡 (two-photon microscopy) といった最先端のイメージング技術に関する特別講演も行われた。これらの技術で先頭を走る研究者が中国国内に揃っている。こうした最先端研究を進めるPIたちが米国など海外から戻り、「国家重点実験室 (State Key Laboratories)」として国家的な支援を受けたラボを構えている事による寄与が大きいと思われる。学生の発表も含め、視覚研究の活気と裾野の広がりを強く感じた学会であった。2018年のAPCVは杭州

で行われる予定だが、このVSCとの共同開催になる見通しとの事である。国際会議へ出てくる事が難しい中国の研究者の活動を、裾野を含め広く見る良い機会になると予想される。

最後に、今回のVSC参加に当たってはSheng He, Pei Sun (清華大学), Xiaohong Wan (北京師範大学) の各氏に招聘の労をとって頂いた。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

参 考

- 1) 曲阜視覚科学会議 HP <http://vsc.psych.ac.cn/dict/page/1>
- 2) 中国科学院心理学研究所, 曲阜視覚科学会議 実施報告 (中国語のみ) http://www.psych.ac.cn/xsjl/xsjldt/201707/t20170707_4829268.html